

## 第3回日野市子どもの貧困対策協議会 議事録

開催日時	場所
平成28年11月14日(月) 9:30～11:00	本庁6階 全員協議会室
委員	
<p><b>【子どもの貧困対策協議会】(出席委員)</b></p> <p>会長 首都大学東京 都市教養学部 教授 阿部委員            副会長 明星大学 人文学部 教授 福田委員            市民委員 木村委員            市民委員 中間委員            社会福祉法人 創隣会 本村委員            子どもたちの居場所・学びあいの場 ほっとも☀ スタッフ 今井委員            子どもたちの居場所・学びあいの場 ほっとも☀ スタッフ 古谷委員            民生児童委員 小黒委員            市立大坂上中学校 校長 高橋委員            市立日野第五小学校 校長 小林委員            企画部長 大島委員            市民部長 古川委員            子ども部長 小塩委員            教育部教育指導担当参事 記野委員            健康福祉部長 赤久保委員</p> <p>(欠席委員)            教育部長 岡野委員</p> <p><b>【庁内連絡会】(出席委員)</b></p> <p>企画部 企画経営課長 仁賀田委員            企画部 男女平等課長 田中委員            市民部 納税課長 星野委員            まちづくり部 都市計画課長 岡田委員            産業スポーツ部 産業振興課長 北島委員            健康福祉部 生活福祉課長 籬野委員            健康福祉部 健康課長 山崎委員            子ども部 子育て課長 中田委員            子ども部 保育課長 高橋委員            子ども部 子ども家庭支援センター長 堀辺委員            教育部 庶務課長 兼子委員</p>	

教育部 統括指導主事 重山委員  
教育部 学校課長 加藤委員  
教育部 教育支援課長 横井委員  
教育部 生涯学習課長 木村委員

#### 事務局

日野市 健康福祉部 セーフティネットコールセンター  
センター長 青木  
セーフティネット係長 中川  
自立支援係長 大野

#### 委託事業者

株式会社ぎょうせい 研究員 若松、増川

#### 1. 次第内容

1. 市内の民間団体等への調査結果について
2. 「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」の構成案について
3. 意見交換
4. その他

#### 2. 配布資料

- ① 資料 1：日野市子どもの貧困対策に関する基本方針【構成案】
- ② 資料 2：施策体系図（事業を含む）（案）
- ③ 資料 3：日野市子どもの貧困対策に関する「基本方針」策定のための活動内容等調査の結果について

#### 3. 協議内容

##### 【会議要旨】

協議会：阿部会長

次第に沿って協議を進めていく。本日は傍聴を希望している方がいるが、傍聴を許可しても良いか。異議なしと見なし、傍聴を許可する。まず次第1「市内の民間団体等への調査結果」について事務局から説明を行う。

事務局：青木

次第1について資料3を参考に市内の民間団体への調査結果について説明する。これまで7月14日と9月30日の2回協議会を開催してきた。その中では日野市の各課で行っている事業の内、子どもの貧困に関連する事業について整理を行い、意見交換を

行った。前回 9 月 30 日の協議会では全庁的に調査し、主な課に直接ヒアリングを行い、出てきた事業について 2 つの分類に分けた。教育、生活など分野ごとに分けたもの、もうひとつは、川の流れに例え、貧困の予防に繋がるものを川上、貧困や生活困窮に対処するものを川下という分け方で、それぞれ事業を一覧化したものを資料とした。また調査をする中で収集した貧困に関連する各課の実績数値を掲載している。断片的ではあるが、日野市の子どもの貧困対策の実施状況を確認している。

各課が実施している事業の他に、民間団体でも子どもの貧困対策に繋がる活動を行っている。全ての団体の調査は難しい為、10 月 26 日、27 日に市内 11 の民間団体にヒアリングを実施した。民間団体の活動や意見などを委員で共有する為、資料 3 としてまとめている。

一部の団体にはヒアリングシートを事前に配布しヒアリングを行っている。  
各団体の活動を説明する。

(団体の活動内容)

■フードバンク TAMA

今年度から活動を開始したフードバンク団体。フードバンク活動以外にも市民に対する貧困の啓蒙活動を計画している。

■社会福祉法人創隣会

日野市より学習支援事業を委託し実施している。「ほっとも★」の開催回数と参加人数を掲載している。

■日野市社会福祉協議会

夏休みにひとり親世帯の交流を目的としたバスツアーを行っている。また所得の低い世帯に生活福祉金の貸し付けを行っている。

■NPO 法人市民サポートセンター日野

市の子ども家庭支援センターが委託しており、家事援助などの相互援助活動としてファミリー・サポート・センター事業を行っている。またひとり親世帯へのホームヘルパー派遣事業を市の子育て課から委託されている。

■日野市商工会

小規模事業者の経営の改善を目的とした相談事業を行っている。

■日野キリスト教会

今年度の 5 月からこども食堂を開催している。

■NPO 法人おたすけ個別補習塾 ※ヒアリングは未実施

生活保護世帯の中学生を対象に個別に学習指導をしている。日程の都合でヒアリング調査は行っていない。

以上が各団体の主な活動内容となる。次にこれらの団体に加え保育園、学校、児童相談所、民生委員からもヒアリングを行っているので、主な意見と課題について抜粋して紹介する。

(ヒアリング内容のうち主な意見と課題についての抜粋)

■フードバンク TAMA

主な意見：市内には生活に困っている人がいるが、個人の貧困状態を把握することは難しく、個人への対応は行っていない。日社協から紹介された施設や団体へ食料を届けていく中で、今後は行政から個人への支援要請を受けたい。

■社会福祉法人創隣会

見える課題：学習支援と居場所支援を行っているが、居場所支援の中で子どもたちへの行儀やしつけ、心のケアなど様々な対応が必要であるため、負担が大きくなっている。

■市立あらい保育園

見える課題：経済的貧困よりも心の貧困にあるケースの方が多く、その対応策が必要。また貧困の親に制度や相談を伝えても避けられることが多い為、どのようにアプローチしていくかが課題。

■日野市社会福祉協議会

主な意見：社協の業務は貧困と全てにおいて関連を持っている。高齢者ケアサービス事業では、家族や身近な人の貧困状態を発見する場合がある。

■民生児童委員

主な意見：貧困家庭を素早く発見する為には、特に保育園や学校、児童館など教育施設の役割が大きいと感じている。

■NPO 法人市民サポートセンター日野

主な意見：ひとり親世帯の母親が問題として大きくなる前に、自分の人生や子育てについて考えられるような学習プログラムがあると良い。

■日野市商工会

主な意見：企業の存続は家庭収入の安定に関係するため、貧困対策に繋がっている部分は大きいのではないかと考えている。

■市立大坂上中学校

主な意見：親とは別の道を設けることで貧困の連鎖を断ち切ることができると考えている。

見える課題：貧困世帯の子どもの個別ケアまで行うほどの余裕は学校にはなく、周囲からの要望に応えられない。

■市立日野第五小学校

主な意見：学校と行政の間に担当コーディネーターを設置し、一括の相談窓口として連携をとることができるが良い。

■東京都八王子児童相談所

主な意見：以前は両親の病気や子ども自身が抱える問題を理由とする入所が多数だったが、虐待を原因とする入所が非常に増えている。

■日野キリスト教会

主な意見：食事に困っている子どもにもっと知ってもらいたいが、その方法が分からない。また子どもに個別で対応すると貧困に陥っていることが周囲に知られてしまう。

今回の調査とヒアリングで非常に多くの意見を集めることができた。時間の関係により全ての紹介は難しい為、以上の抜粋とする。次第1は以上とする。

協議会：阿部会長

市民の民間団体への調査結果について質問や意見はあるか。

協議会：木村委員

アンケート結果は大変勉強になった。今回調査を行った団体以外にも子どもに向けて活動をしている市民団体はあるが、今後ヒアリングを行う予定はあるか。また今後、基本方針の策定にあたって子ども自身の意見を汲み上げることが必要になると思うが、何か良い案があるか。

事務局：青木

今後追加のヒアリングはスケジュール的に基本方針を策定するまではできないが、策定後に施策を進めていく中で検討をしていきたい。子どもの意見の汲み上げについては東京都が行った生活実態調査で子どもの意見が多く集まっている。アンケート結果については後ほど説明を行う。基本方針の策定までは工程が決まっているが、策定後も定期的に意見を吸い上げていくことが必要になるので、施策に反映できるよう検討

していく。

協議会：中間委員

事前に配られた資料を読ませてもらい、第一印象では様々な部署や団体が意識をもって活動をしていると感じた。特に市立日野第五小学校から上がっている、どこに連絡をすれば良いのか分からないという意見が現在の日野市の実態だと思う。アンケートやヒアリングを行い、またこういった協議会を立ち上げたこともあり、現在は点の活動だが数年後には面の活動に発展するようにアウトプットをしてもらいたい。例えばこども食堂から上がっている、もっとPRしたい、もっと知ってもらいたいなど、どういった支援があるのか意見を掘り下げていけば必ず面の活動になっていくと思う。

協議会：高橋委員

こども食堂やフードバンクなどのPRには、「知っ得ハンドブック」が活用できるのではないか。この本に掲載することで市民や学校の先生も参考にすることができる。新しい施策を紙面で紹介することで、地道だが効果的に知ってもらえることができる。

協議会：阿部会長

今ある資源を活用することも考えていきたい。こども食堂やフードバンクをはじめとする民間団体は対象者にアプローチしづらいという問題が大きい。他の地域のようにフードバンクと福祉事務所が直接連携し、福祉事務所に申請がきた段階ですぐに支援に繋がるような仕組みも考えることができる。具体的な仕組みづくりを行ってほしい。

では、次に次第2「日野市の子どもの貧困対策に関する基本方針の構成案」について進めていく。事務局より説明を行う。

事務局：青木

構成案について資料1から説明を行う。これまで開催した2回の協議会と次第1までで現在行われている施策の把握を行ってきた。しかし現在それぞれの施策は個別に行われているため、子どもの貧困対策として意識の方向を定めるものが今回の基本方針になる。

次に基本方針の骨組み案を説明する。第1章から第5章で構成をしている。第1章は社会的背景、第2章は子どもを取り巻く現状分析、第3章は共有すべき重要課題、第4章は方針の軸となる基本的な考え方及び対策、第5章は推進体制について定めている。構成案は既存の事業をベースにしている為、流動的な部分が多い。流動的とは例えばある事業とある事業が統合したり、全くこれまで取り上げていないものが入ってくるなど、そういった流動的な部分が含まれることを意味している。

今後、東京都が首都大学に委託している子どもと保護者に向けた生活実態調査の分析結果が出てくる。また日野市議会の子どもの貧困議員連盟から4つの分野に分けた施策提言が直接市長に提出されている。この提言の個々の項目から短期的、長期的な対応方針がはっきりとしてくる。また本日の協議会で出た意見も踏まえ骨組みの中身を固める予定である。

章ごとに説明していく。

#### ■第1章、社会的背景について

今回の基本方針の策定に至るまでの国や日野市の情勢について触れたい。今後文章化していく予定である。

国等の情勢ではイメージ段階だが人口の推移や、国の子どもの貧困率を載せる案が出ている。日野市の情勢については、年少人口、市の財政状況、扶助費が増大している点について載せる案が出ている。基本方針の計画期間が必要かどうか意見が欲しい。

#### ■第2章、子どもを取り巻く現状分析について

日野市の貧困に関連する項目の現状と子どもと保護者の生活実態について触れたい。日野市の現状については、前回の協議会の中で貧困の度合いが推測される生活保護、児童扶養手当、就学援助率などのデータを示した。また児童扶養手当の現況届提出時にひとり親世帯へのアンケートの集計結果も示している。以上の内容に関するものや子どもの健康関連、虫歯のデータや算定中だが日野市の貧困率など、日野市の貧困に関する現状を示す数値を項目により表やグラフを用いて記載していきたい。資料に記載しているものは仮の項目の為、他にも必要なデータがあれば意見が欲しい。

[資料1:7p]子どもと保護者の生活実態について、生活実態調査の集計と分析が進んでおり、調査の概要と結果について触れたいと考えている。

#### ■第3章、共有すべき重要課題について

現在まだ中身は無いが、生活実態調査で洗い出された課題など重要なものを抽出する予定となる。

#### ■第4章、基本的な考え方及び対策について

基本方針の軸になる項目である。子どもの貧困に関連する既存事業がどのような分野で、また対象が子どもか保護者か、さらにそれが貧困を予防するものか、貧困状態に対処するものかを川上と川下に例え、一覧にして共有を行ってきた。既存の事業をベースとして、基本方針をどのように方向づけていくかを整理したものである。

目指すべき姿の案として、「すべての子どもたちが育つ環境に左右されず、子どもた

ちの将来が希望と可能性に満ちた環境を目指します」とした。これについては第1回協議会で示している子どもの貧困対策の目的をもとに設定している。この目指すべき姿はもう少し分かりやすくした方が良いと意見が出ている。

基本的な方向性は既存の事業がどの方向を向いているか、5つの方向性を定めている。

- 1、生活習慣の改善を図るため、個に応じた支援を実施する。
- 2、子どもの学習意欲を尊重し精神的に支える、教育と福祉等が一体となった支援をする。
- 3、こどもの生活の質を高めるため生活環境の改善を支援する。
- 4、子育てに関する親の不安を解消する生活や経済的な支援を実施する。
- 5、全ての子どもたちが支援を享受できるよう情報発信、支援のネットワークを強化する。

以上5つの方向性で既存の事業を方向付けている。他に新たな方向性があれば意見が欲しい。

[資料1:13p]目指すべき姿では、既存事業の体系図を掲載したいと考えている。体系図案として資料2を配布している。資料2の内、左欄から順に目指すべき姿、基本的方向性、一番右欄が子どもの貧困対策に関連する既存事業を整理している。方向性によって事業の量に差があるため性質の近い事業を統合することも必要だと考えている。事業については生活実態調査の分析結果、議員連盟からの提言への対応状況によって現在の事業の拡大や新規事業の追加を行う可能性もある。事業の内、網掛けのものは委員から意見が出ているものを表している。また事業欄の左部に配置している施策項目(仮)は取りまとめ中につきフレームのみとしている。体系図の説明は以上とする。

[資料1-14p]目標値 成果目標 施策の行動目標には、子どもの貧困率や就学援助率など基本方針の中にある数値目標を設定し、その推移を見ていくのか、あるいは事業を行う中で行動目標を設定することが必要か意見が欲しい。

#### ■5章、推進体制について

基本方針策定後の推進体制を盛り込んでいく予定。進捗を管理するために定期的な実態調査や貧困率の定点観測が必要という案もあるので意見が欲しい。次第2、構成案の説明は以上とする。

協議会：阿部会長

構成案や基本的な方向性について意見があれば発言を求めたい。

協議会：木村委員



なぜ子どもの貧困が問題なのかについて触れてほしい。教育格差を通じ子どもの一生に関わる問題ということ。また心の問題にも影響し、教育を通じて世代間の連鎖を引き起こす可能性がある。個人の尊厳や教育を受ける権利といった問題にも関わってくる。なぜこの問題を大きく取り上げるのかを日野市の姿勢として載せてほしい。また子どもの貧困率に触れるにあたって、ひとり親世帯率が OECD 諸国の中で最下位という点や、再分配後に貧困率が上がっている問題についても触れてほしい。

構成案の中で、日野市の厳しい財政状況や増加する扶助費について触れることになっている。それは触れなくてはならない部分だと思うが、子どもの現状に触れた後の位置づけが良いと思う。基本方針の期間が社会的背景の括りの中に入っているのは違和感がある。期間項目をどこに盛り込むかは位置づけの問題になると思う。日野市の現状の中で、児童扶養手当の括りの中に児童虐待の件数があるのは違和感がある。

第 2 章の 2 に子どもと保護者の生活実態の項目がある。調査結果の分析も載せることになると思うが、生活実態調査で上がってくる市民の声の数字が具体的に語られる構成になると良いと思う。

第 4 章では、例えば学校や NPO 団体の意見をどう施策の中で支えていくかという観点でもまとめられると思う。

協議会：大島委員

第 1 章に厳しい財政状況という項目があるが、これを載せる意図が分からない。項目として必要なのか。財政状況について発信をしていく必要はあるが、載せるのであれば国の財政状況も載せる必要があり、基本方針の目的がはっきりとしなくなる。

協議会：中間委員

木村委員の発言にあった、なぜ子どもの貧困が問題なのかを掲載することに賛成する。また施策の結果について振り返ることが重要だと考えている。定点観測など数値化した目標値や成果目標を取り上げてほしい。資金を使って実施しているので、振り返った時に本当に上手くいったのかを確認できるようにする必要がある。またどこかに日野市の意気込みが見える文章を載せてほしい。日野市にとって子どもの貧困対策はどれくらいの熱意なのか、その想いを方針の中に載せてほしい。

協議会：阿部会長

第 2 章、子どもを取り巻く現状分析では行政データを掲載しているが、生活保護世帯とひとり親世帯のデータに偏っている。ひとり親世帯は貧困世帯の中でも 2 割程なので、その他の子どもたちのデータも欲しい。いじめの件数や学習状況テストで最低限の教育レベルに達していない子どもの割合、平均点に達していない子どもの割合、保育所や児童館の利用状況、中高生の非行の件数などそれ以外の子どもたちの状況を載

せることで、貧困の指標として活用できる。

基本的な方向性の文言が非常に消極的である点について、中間委員の意見に賛同する。5項目全てで支援すると記載があるが、支援することは当たり前なので、例えば学習格差をなくすや、食事に困る子どもはひとりも作らないなど、ポジティブな最終目標が見えるようにしてほしい。項目1～4までは支援することが目標になっている為、現状でも目標に達しており、それ以上の目標が欲しい。基本的な方向性の未記入欄に何が入るかにもよってくるが、もっとポジティブに記載してほしい。

協議会：本村様

青木センター長が説明をしていたが、目指すべき姿「全ての子どもたちが育つ環境に左右されず、子どもたちの将来が希望と可能性に満ちた環境を目指す」について、環境を変えることは難しい状況が多い為、それぞれの環境で可能性に満ちた成長を目指すといった内容の方が良いのではないかと。また第1章で、文言から「厳しい」は外してほしい。厳しいという記載があると、これ以上は難しいので理解してくださいという意味合いを感じる。第2章子どもを取り巻く現状分析に子どもの虫歯の数に触れているが、子どもの成長といった意味合いで体重や身長、体力測定なども併せて載せてほしい。

協議会：福田副会長

意見が重複してしまうが、第1章の財政状況の掲載に違和感がある。第4章の目標も読み手に届かないように感じた。目指すべき姿は基本方針によって子どもたちがこうあるべきという目指す姿だと思う。基本方針の中で目指すべき姿では、基本方針自体の目標とも捉えることができる。項目4に目標値・成果目標が記されるはずなので、成果目標に対応する基本的な方向性として、「～を軽減させる」や、「～をなくす」といった積極的な文言になると思っていた。これは会長と同意見である。

また環境という言葉が分かりづらいので表現の見直しが必要。アンケートやヒアリングの中で触れられていたが、心の問題や心のケアなど、財政面だけではなく、人としての在り方を捉えた施策の実施に繋がる表現にしてほしい。おそらく序文で書かれると思うが、なぜそれが必要なのか、心の貧困の問題に関しても考慮していることを反映してほしい。

協議会：阿部会長

それでは次の議題に移る。順序が変わってしまうが、次第4「その他」を先に行い、その後次第3「意見交換」を行う。

東京都が行っている子供の生活実態調査の日野市データを資料として配布する。現在集計を行っているところだが、自由回答欄を紹介したく用意をした。アンケート結果

は個人情報保護の関係により、傍聴の方に一度ご退席いただきたい。この自由回答は小学校5年、中学校2年生、高校2年生の全員を対象にしたアンケート調査で保護者と子ども本人に日野市へ要望することを書いてもらったものである。

データ数が多く読み込むと時間が掛かってしまう為、特徴的なものを抜粋して紹介する。中には子どもの貧困対策には直接関係しないものも含まれているが、日野市として何らかの形で施策に反映をしていけたらと思う。

#### ■小学5年生からの意見

- ・ポイ捨てや公園にゴミが捨ててあるなど、街中のゴミを無くしてほしい。
- ・歩きタバコをなくしてほしい。
- ・遊具を充実させてほしい。
- ・市民プールを充実してほしい。
- ・無料で野球やテニスを練習できるところが欲しい。
- ・壁打ちができる大きな公園が欲しい。
- ・学童保育は小学3年生までしか受け付けていないが、6年生まで受け付けて、安心できるようにしてほしい。
- ・家族の影響で勉強に集中できないので、勉強できる場所を増やしてほしい。
- ・図書館を増やしてほしい。 など

#### ■中学3年生からの意見

- ・全ての図書館に勉強室が欲しい。
- ・部活から帰る際に人通りが少ない為、街灯を増やして欲しい。
- ・公共で遊ぶことのできる場所が欲しい。
- ・相談できる場所が欲しい。 など

#### ■高校2年生からの意見

- ・自習室が欲しい。
- ・駐輪場が欲しい、また安くして欲しい。
- ・図書館を増やして欲しい。
- ・部活後に寄る時間がない為、図書館の閉館時間を延ばしてほしい。
- ・静かに自習できる場所を作ってほしい。
- ・交友関係について相談できる人が欲しい。
- ・水飲み場が欲しい。
- ・中高生が無料で使用できるホールなどの施設が欲しい。
- ・ショッピングモールやゲームセンターが欲しい。
- ・塾などではなく家以外で勉強できる場所が欲しい。
- ・進路や勉強が相談できるボランティアが欲しい。 など

■保護者からの意見

- ・市役所や子ども家庭支援センターに相談しても共感してもらえず解決しなかった、それ以降一切利用してない。
  - ・税金が高い。
  - ・学校の学費が高い。
  - ・高校から進学させたい為、利子が低い奨学金がほしい。
- など、経済面の回答が多い。

これらのアンケート結果を踏まえ、どう計画に反映できるのか意見が欲しい。

事務局：青木

資料は個人情報推測されるものになるので、閉会後に回収を行う。

協議会：阿部会長

傍聴の方が戻られた後、アンケート結果に関する発言は個人情報に考慮してほしい。意見だけでなく感想でも構わない。

協議会：木村委員

非常に多くの声が拾えている。毎週土曜日に高幡の図書館に行くが、開館する前から行列ができており、テラスで勉強をする子ども達を目にしている。学習の場に関する意見が非常に多いことに驚いた。他のアンケート結果も参考にしながら自身の勉強もしていきたい。

協議会：高橋委員

子どもたちの勉強に関する意見が多いことに意外に感じた。子どもたちが希望をもって変わる為には中学校や高校の進学支援をすることで、貧困にある子どもも変わることができるのではないかと感じる。例えば時間外の施設開放が難しい場合や学校であれば責任の問題など多くの制約がある中で、子どもも保護者も人としての在り方など精神的な支えを求めているのではないかと感じている。

協議会：今井委員

勉強する場所がないという意見について、図書館は席が埋まっており勉強をするためのスペースがないことが多い。ファストフード店などはお金が必要で、勉強をしていると追い出されることがあり、勉強ができる場所がないことを実感している。

協議会：大島委員

今井委員に質問がある。子どもは家で勉強をしたがらず、外で勉強をしたがるがなぜだろうか。

協議会：今井委員

自身の経験になるが自宅では気が散ってしまう為、場所を変えることで集中しやすい効果があると思う。

協議会：阿部会長

経済的理由として家に勉強机がない、弟妹がいて集中できない、自分の部屋がないといった要因もある。

他に意見があれば、自由に発言をしてほしい。

協議会：中間委員

保護者はこのアンケートを本気で書いていると感じる。親の介護との絡みの問題や離婚の問題など保護者の意見と実施している施策を結びつけることができるようになるとうい。

協議会：阿部会長

なんとかこのアンケートを施策に反映してほしい。ひとつでも実現できるように協力していきたい。

協議会：木村委員

これだけの日野市の生の声が集まっているので、生の声を活かしたときに新しい知恵、施策が出てくるかどうか知恵の絞りどころだと思う。アンケートを最大限活かす方向で新しい施策を生み出すことで施策の体系図をより豊かにしていければと思う。

協議会：中間委員

このアンケート結果は回収するとのことだが、返却することを約束した上で読むことはできないか。

事務局：青木

このアンケートはまだ分析中のものである。非常に重要な意見が多い為、阿部教授の好意で提供されたデータである。今後は調査結果を反映できるようにしていきたいが、本日は回収を行う必要がある。

協議会：福田副会長

このアンケートは子どもの声を表現するチャンスになっている。この声が家庭、学校などで聞き取れていたのか、それとも初めて意見を聞くことができたのかを知りたい。子どもが大人に対して強い不満をもつことは精神世界への影響が大きい。集計して子ども全体への日野市の施策を考えることが川上の生活環境に対する支援に繋が

っていくと思う。また思うことはあっても記していない意見は多いと思うので、教師やソーシャルワーカー、スクールカウンセラーが子どもたちの声に耳を傾けることが必要だと感じている。

協議会：阿部会長

次第4「その他」を終わりとする。順序が変わるが最後に次第3「意見交換」を行いたい。計画全体の話でもよい。

協議会：古谷委員

資料3ひとり親ホームヘルプサービス・ヘルパー派遣で対象になる世帯の選別方法がわからない。本支援の内容は、食事、洗濯、子どもの対応をヘルパーが代行するものだが、この支援は親からの要望で対応しているのか。現場の話で、親が忙しいというわけではなく、生活保護を受けていて働いていないのに、ヘルパー派遣されている実態を聞いた。こうした親へのヘルパー派遣支援は親の自立の妨げになるのではないか。

協議会：堀辺委員

ひとり親の世帯で、子どもを育てるのが難しい方や仕事が忙しい方の為に食事や、掃除、子どもが小さいときには保育施設の迎えなどを行っている。申請は子育て課で受け付けており、生活保護を受けている家庭についてはケースワーカーを経由するケースもある。

協議会：中田委員

ケースワーカーを通してなど、ヘルパーが必要と判断された際に派遣している。自立に向けた支援を目的としているので、離婚後2年以内であるとか、就労のために必要な学校に通っているなどの条件がある中で日常生活支援が必要な場合に派遣している。

協議会：堀辺委員

補足として、子育ての力が低い家庭の場合は、子ども家庭支援センターのケースワーカーと協力して保護者のサポート支援を行っている。

協議会：阿部会長

以上で質疑を終了とする。

事務局：青木

今回の基本方針の構成案はまだ中身が固定化されていない。序文などもまだ盛り込んでいない状態の為、なぜ子どもの貧困対策を行うのか、また市の意気込みの部分も明記していきたい。財政状況については安易に載せてしまっていた。日野市の現状を示

す数値についてははじめ関連やテスト関連、児童館関連などのデータがあるか確認を行い、精査していきたい。

施策の振り返りについてもどういった基準で定点観測していくか、また調査自体を定期的に行っていくかどうかを詰めていきたい。今回の案では第4章の目指すべき姿や基本的方向性など、今回上がった意見や生活実態調査の結果と紐づけできるように進めていきたい。市の行政以外の活動や意見も取り込みできていない状況なので早急に対応していく。

阿部会長から紹介された生活実態調査の自由意見を読んで感じていることは学習場所など居場所に関するところが多かったこと、またアンケートを書いてスッキリした、こういう意見を出せる場がなかったので感謝しているという意見には大変驚いた。調査結果は他の政策にも紐づけできる部分は大きいので、ほかの部門と連携できるようにしていきたい。

事務局：中川

第4回協議会は12月19日月曜日9:30～11:30開催。

場所は本庁6F全員協議会室とする。

以上